



あがこん通信

第23号



新年明けまして
おめでとうございます
自由民主党
福岡県議会議員 あがた 善彦

今年天皇陛下のご在位三十年目となり感慨無量です。

昨年十一月二十九日、宗像市で開催された「全国豊かな海づくり大会」に県議会議員の一人として天皇皇后両陛下をお迎えする機会に恵まれました。おそばで尊顔を拝することができましたことは、私の人生の中でも大きな感動の一つとなりました。両陛下の慈愛に溢れるオーラに触れた国民は自然に涙がにじんできるといいますが、あらためて「私も日本人。」と感慨を深くいたしました。

さて、昨年も世界では多くの変化がありました。中国・台湾・韓国・北朝鮮といった極東の動向は、我が国の将来に大きく影響します。とりわけ北朝鮮の核ミサイル問題は深刻ですが、日本人の危機感あまりにも希薄です。反自民の方々は決まり文句のように「話し合いで解決を！」と言いますが、話し合って決定したことも簡単に反故にされ、おいしいところだけ騙し取られ

る、といった理不尽の繰り返しです。日米安保協定だけで本当に日本の領土と国民を守れるのだろうか？ 観念論ではなく、目の前にある危機に、具体的に、どう対策すべきかを真剣に議論する時期に来ていると思います。

国内では衆議院の解散総選挙が行われました。当初は求心力を持つ新党が勢力を拡大するかに見えましたが、野党は分裂、自民党の圧勝。多くの野党が政権を倒すことだけを目的とし、政策合意もなまま手を組みます。しかしその後、国をどう運営するのか、全く見えてきません。問題が山積する中「モリ・カケ」で足を引つ張られ続けた安倍首相ですが、経済・雇用・福祉といった国内問題の解決、日本の国際的存在の回復等々、大変巧みに舵取りされているように思います。民主党政権が証明するように、安定した政権がなければ安定した国の運営はできません。本年も変わらぬご支援をお願いいたします。

モノ申す！

NOW IS BETTER

居眠りしつつザッピングしていたら白黒映画が目に入った。回診に来た医師が患者に灰皿を勧められ腰かけて一服。今ではあり得ないシーンに一瞬で目が覚めた。昭和三十九年吉永小百合主演の「愛と死を見つめて」である。連綿とつながる日々の中では気付かないが、古い映像を見ると隔世の感に驚かされる。少し前の日常を振り返れば、駅頭の伝言板を利用された方や「なぜ早く言わないの。まだお店開いてないよ。」と叱られた朝を経験された方も多いはず。時代は移り、瞬間に普及した携帯電話やコンビニがかつてのピンチを解消してくれた。

人は新しい便利なものに感激するが、時と共に日常の一部に変わる。携帯やコンビニばかりでなく、社会福祉や各種助成制度も

同様で、一旦受益者になると当然の権利に変わり、あまつさえ制度の拡充や増額を望むようになる。「既得権益」は霞が関や永田町、財界ばかりでなく、我々の中にも存在するということだ。

加えて厄介なことに、人は過去より現在、現在より未来の充実を希求しながら、いつの時代も「昔は良かった。」と過去を美化礼賛してしまう傾向を持つ。つまるところ人は「今」に満足できない存在なのだ。民主政治の難しさは、どこまでも足ることを知らない有権者の支持に拠って立つところにある。

政治を更に困難にしているのが価値観の多様化と社会の成熟。例えば昭和三十九年の医師は患者の前でさえ喫煙が許され、差別・放送禁止用語といった制限も緩やかだった。通信が発達した今、公人は一挙手一投足・一言一句を衆人に監視され、地雷

を踏めばたちまち全世界に発信される。猥雑な現代、昔の方が良かったと思うことも少くないが、後戻りはできない。そこでこう思い直す。

「昔の王侯貴族より私の方がずっとゼイタク。」実際私は卑弥呼や織田信長が見たこともない和洋中華を食し、機能的な衣服を着て、少々隙間風は入っても快適な部屋に住んでいる。

降る雪や明治は遠くなりにけりー中村草田男がこう嘆息した二年後、昭和八年に誕生された今上陛下のご退位も決定し、大正、昭和、平成さえ間もなく過去になる。

Now is better. 「今の方がいい・今の方がマシ」どう訳すかはともかく、有権者がそう思い定めなければ政治の 대중迎合は止まらない。

「モノ申す」はあがこん読者の私見に基づくエッセイです。Y